第 147 回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 29 年 3 月 22 日提出）

１．題　目：初習外国語教育のアクティブラーニングをともなった改善

２．日　時：平成 29 年 2 月　4 日（土）13：30 ～16：30

３．場　所：教養教育講義棟 C-35

４．主　催：初習外国語小委員会

５．対　象：教養教育外国語科目（初習外国語）担当教員

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　○　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　○　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
現代ではグローバル化により、全世界的に多言語を使用できる人材が望まれている。そのためヨーロッパではもちろん韓国でも高校で第２外国語は必修科目となっており、中国や台湾等のアジアの国々でも第２外国語を学ばせる高校が増加している。だが日本では第２外国語の履修は減少傾向にある。

以上の点を踏まえてＦＤを実施し、前半と後半に分ける。前半ではまず言語教育研究センター長が本学の初習外国語教育の目的を明確に伝える。次いで、大学入学以前に第２外国語を学んでいる他国の学生達との差を縮めるために、東海大学の深井准教授が、学生達の勉強意欲を高め、自主的に勉強する方向に導く効果的なグループによるアクティブラーニングの方法について講演を行い、初習外国語の教育方法について改めて全員で考察する。後半では、各言語の担当教員に分かれ、各外国語に適した授業内容の改善と学生の自宅で学習を促す措置などについて話し合う。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）
１．初習外国語の基本方針について　13:30-13:45
言語教育研究センター　稲田センター長
２．「グループで学ぶ―6 つの力を獲得するために―」　13:45-15:15

東海大学　国際教育センター国際言語教育部門　深井陽介准教授

３．言語別分科会　15:30-16:30

９．参加者：２４名

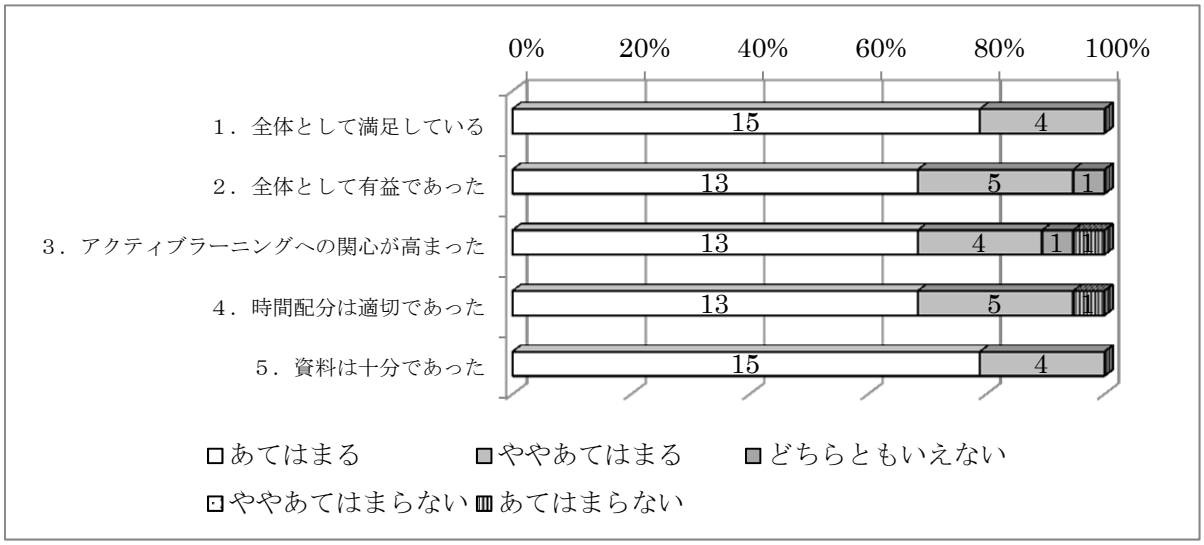
（内訳）

所　　属	人　数
言語教育研究センター	3
多文化社会学部	1
経済学部	1
学外非常勤講師	１６
他大学	3
計	２４

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



（回答者：１９名）

●アクティブラーニングに関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。

・大変勉強になりました。学生をここまでやる気にさせて素晴らしいです。

・ほとんど“アクティブ”な内容だった。

・前半は有益で、後半は普通である。

・深井先生の研究発表はとっても勉強になりました。非常勤には限界がありますが、取り入れられるものは参考にさせていただきたいと思います。

・おもしろいご発表でした。
・当然ですが教員のレベルが高いことが必須条件であると感じた。
・普段担当している 1 クラスあたりの学生の数がかなり多いので、そのまま取り入れることは難しいが、部分的に参考にできるところがたくさんありました。
・「いとしのボナパルト」がとても良い曲でした。
・言語教育は非常勤ではなく専任教員がすべきだと強く思いました。
・クラスサイズを小さくしていただけるとアクティブラーニングもしやすくなるのですが。

●今回のＦＤの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入下さい。
・興味深いご講演でした。
・語学の授業に特化した形でのご発表でしたので、即時的に有益なものが多々ありました。
・講演はＰＣのモニタのない顔の見やすい教室の利用も悪くはないのではないでしょうか。
・プログラム内に最初から質疑の時間を作ってほしい。講演時間が 15 時 15 分（少し遅れて終わる）で、本来休みの時間にきちんとした質問をするのは困難です。しかもこのタイミングでアンケート回収なら上にどのタイミングで集めるか書いておいてください。
・深井先生のお話はとても参考になりました。

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

全世界的にグローバル化が進むなか、英語だけではなく多言語を使用できる人材が望まれている。長崎大学での初習外国語の授業は２年間週１コマであるが、その短い時間にいかに学生達の学習意欲を高めるかが語学力の向上に結び付くと考えられる。本年度のＦＤでは、前半では、東海大学の深井准教授に、学生達の自主性に重きをおいたグループによる効果的なアクティブラーニングについての講演を依頼した。深井准教授は、主体性、コミュニケーション能力、課題解決能力等の向上を目指し、授業の中で初習外国語でのミュージックビデオや動画を学生達に作成、公開させ、さらに弁論大会、検定試験にも積極的に参加させることで、言語力だけでなく、分析力、団結力、想像力、発信力等が高まったと報告した。

ＦＤ後のアンケートによると興味深かった、アクティブラーニングへの意欲が高まった、深井准教授の教授方法を可能な部分は取り入れたいという意見が多かった。他方、東海大学では一クラスの人数が３０人前後だが、長崎大学では４０～５０人であるために、効果的なアクティブラーニングの実施のためには、クラスの人数を減らしてほしいという要望があった。また、時間の配分に問題があるとの指摘があったので、次回のＦＤでは改善する所存である。

後半は、各言語に分かれ、本年度の問題点を話し合い、来年度の授業の方針を決定した。
今回のＦＤに関しては、ほぼ１００％が満足しており、９０％が有益で、アクティブラーニングへの意欲が高まったという結果が得られたので、「初習外国語教育のアクティブラーニングをともなった改善」という目的を達成したと考えられる。

（文責：　大橋　絵理　）

１１．実施代表者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：言語教育研究センター長　　氏　名：稲田　俊明
e-mail：inadat @nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2379

１２．申請者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：教授　　氏　名：大橋　絵理
e-mail：eohashi@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2086